

和洋女子大学
デジタル・データサイエンス教育プログラム
自己点検・評価報告書

2024(令和 6)年度

和洋女子大学では、2023 年度に「デジタル・データサイエンス教育プログラム」を文部科学省から認定を受けて課程を実施し、その自己点検・評価を大学・大学院評議会にて実施している。

2024(令和 6)年度の自己点検・評価結果は、以下のとおりである。

項目	点検結果	評価
履修・修得状況	・必須科目「AI・データサイエンス基礎（講義コード：1071、1072、1073、6000、6001）」 共通総合科目 履修者数：82 名 修得者数：69 名 修得率：84.1% [履修者数（学部別）] 人文学部 6 名、国際学部 4 名、家政学部 70 名、看護学部 2 名 ・選択科目「数理と発想（講義コード：1317）」 共通総合科目 履修者数：14 名 修得者数：10 名 修得率：71.4% [履修者数（学部別）] 人文学部 6 名、国際学部 3 名、家政学部 5 名、看護学部 0 名 ・選択科目「日本語学特殊演習Ⅰ」 日本文学文化学科専門科目 履修者数：33 名 修得者数：30 名 修得率：90.9% ・選択科目「心理学統計法」 心理学科専門科目 履修者数：79 名 修得者数：70 名 修得率：88.6% ・選択科目「観光文化と分析」 国際学部専門科目 履修者数：36 名 修得者数：32 名 修得率：88.9% ・選択科目「統計情報処理実習」 健康栄養学科専門科目 履修者数：139 名 修得者数：131 名 修得率：94.2% ・選択科目「保健医療情報学」 看護学科専門科目 履修者数：36 名 修得者数：36 名 修得率：100% ・選択科目「保健統計学」 看護学科専門科目 履修者数：113 名 修得者数：112 名 修得率：99.1% プログラム修了者数は 67 名となり、昨年度の 19 名と比較して大幅に増加した。	A
学修成果	プログラム科目における必須科目である「AI・データサイエンス基礎」においては、修得率が 84.1%であり、15.9%が未取得となっている。授業評価アンケートの総合満足度※は、全体平均より低い値を示している。また選択科目の「数理と発想」については、28.6%が未取得となっている。ただし、「難しい部分もあったが、『実際に説明を聞いて自分でもやってみることで、以前より Word や Excel を使えるようになった』というコメントが多数見られることから、学修成果が得られていると考えられる。各学科の選択科目については、修得率も高く、十分な学修成果が得られていると思われる。 ※授業評価アンケート： 全授業を対象に実施(評価の対象として優位性を欠く少人数(10 人以下)の授業は除外)。 各質問項目を点数化する評価に加え、自由記述欄には項目に該当しない部分の意見や、数値で表されない質的な評価の観点も加味されている。	B

項目	点検結果	評価
授業評価アンケート等を通じた学生の 内容の理解度及び後輩等他の学生 への推奨度	現在実施されている授業評価アンケートには、授業内容の理解度を測る指標がないため、評価は授業の満足度に基づいている。自由記述では、「この授業を通じて Word や Excel の基礎知識を楽しく理解できた」「パソコンが苦手な人でも分かりやすく、Word や Excel の使い方や仕組みを学べたことで、レポート作成がスムーズに行えるようになった」といったコメントが多数寄せられており、一定の学修成果が得られていると考えられる。 各科目内での理解度については、今後さらなる検証が必要であり、その結果を踏まえて授業評価の項目に理解度を反映させることが求められる。 2024 年度は、本教育プログラムの意義や科目構成について十分な説明を行うとともに、プログラムを通じて得られる能力を明確に周知することで、学生の興味を高め、後輩への推奨度向上につなげるための対策に取り組んだ。 2025 年度には、学生ポートフォリオへのバッジ化なども含め、さらに学生への推奨度を上げていきたい。	B
全学的な履修者 数、履修率向上に 向けた計画の達成・進捗状況	2024(令和 6)年度のプログラム履修者は延べ 532 名おり、内 490 名が 1 科目以上を修得した（科目修得率 92.1%）。 履修率向上に向けて、入学時に配付する履修ガイドに「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」を掲載。2 年生以上の学生には、同様の案内をオリエンテーションで配布。教務課履修ガイダンス内で説明、manaba course（オンラインプラットフォーム）で発信する等の周知を行った。その結果、共通総合科目で開講している該当科目については、全学部から履修者を出すことができた。 本学では、大学での学びが深まること、また、大学が提供している学習支援システムへのアクセスが容易になることを目的に、2023 年度より自律的に学ぶ力を育成するために、ノートパソコン等を持参して学ぶ BYOD(Bring Your Own Device)の推進を行ってきた。入学学生のパソコンスキルは、年度ごとに向上しているため、「AI・データサイエンス基礎」の授業内容も時代にあわせた内容に変更してきている。一方、「数理と発想」は、その科目名から敬遠されがちではあるが、身近な話題に引き付けて、とくに数理・AI の理解に必要な微分関数やベクトル、行列などの内容を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるような方法で教示する工夫がなされていた。 今後は、BOYD の推進やデータサイエンスに興味を持つ学生が身につけるべき科目として、多くの学生に受講を勧めていき、プログラムの認知度が高め、履修者数を増加させていく方法を検討する。	B
プログラム修了者の 進路、活躍状況、企業等の評価	プログラムを開設して間もないため、修了者の進路、活躍といった点に関して実績が少ないことから、現在の取り組みについて点検した。 本学では、Society 5.0 を見据え、毎年学内就職説明会やインターンシップ説明会に IT 系企業を招き実施している。また、IT リテラシーを高めるために IT 関連の資格取得を奨励している。中でも、心理学科では、IT 系の資格取得学生に受験料の一部の補助を行っている。そのため、IT 系企業への興味関心も年々高まり、就職を希望する学生も増えている。本学の学生を採用した IT 企業からの評価も高い。今後、本プログラムを履修した学生が IT 業界や IT リテラシーを活かせる職種に就職することが期待できる。	B

項目	点検結果	評価
産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	2024 年度も引き続き、地域連携協議会・教学マネジメント評価委員会を開催し、市川市の諸団体及び市民との連携・協働を推進し、市川市における経済・産業・文化等の諸活動を発展させること、ならびに本学の教育研究を充実させることを目的に会議を行った。本学から学長、副学長、学部長、事務局長等が参加し、地域からは包括連携協定を締結している市川市および地域企業の関係者を加え、地域自治体および企業との意見交換を行った。情報リテラシー能力を付けることは、将来的に必要なものは明確であるとか、データスキルについては、今後スキルのある人材は、適切な配置が行われて活用されるものと思うなどの意見を頂いた。今後は、さらにその他の産業界からの意見等を参考にDXPT と全学教育センター、大学・大学院評議会で連携し、授業の改善・見直しについて継続的に検討をしていく。	B

(評価基準)

S	目標を大幅に上回る成果を上げた
A	目標を上回る成果を上げた
B	ほぼ目標通りの成果であった
C	目標を下回る成果であった
D	目標の成果を全く上げられなかった

以上